

彙報

会長 福井直樹

——常任委員会——

2022年度第2回常任委員会

日時：2022年10月22日（土）13:00～15:20

場所：オンライン

出席者：福井直樹（会長）、有田節子、上山あゆみ、太田真理、奥聡、北原久嗣、北原真冬、桐生和幸、酒井弘、菅原彩加、成田広樹、原田なをみ（以上、常任委員）、石井透（事務局長）

オブザーバー：呉人恵（編集委員長）、江畑冬生（大会運営委員長）、内藤真帆（広報委員長）、田中真一（夏期講座委員長）、酒井弘（学会賞選考委員長）、上田由紀子（倫理委員長）、佐々木冠（国際発信力強化小委員長）、秋庭大悟、小林ゆきの（以上、事務局委員）

[報告事項]

- (1) 今期の組織・役員について
 - ・今期の組織・役員が資料によって確認された。
- (2) 今後の大会開催予定について
 - ・以下の予定が報告された。
 - 第166回大会（2023年度春季大会）：2023年6月17日～18日、専修大学（大会実行委員長：長谷川宏氏）
 - 第167回大会（2023年度秋季大会）：2023年11月11日～12日、同志社大学（大会実行委員長：星英仁氏）
 - 第168回大会（2024年度春季大会）：2024年6月15日～16日、国際基督教大学
 - 第169回大会（2024年度秋季大会）：2024年11月9日～10日、北海道大学
- (3) 各種委員会からの報告
 - ・本彙報の各委員会の項目を参照。

(4) 事務局からの報告

1. 若手研究者の意識調査の結果について

30代までの若手会員に向けて実施した意識調査の結果が報告され、今後の学会運営の参考とすることが説明された。
2. 他学会での「学生会員」の運用について

今後の学会運営の参考とするために他の学会における「学生会員」の運用に関する情報が共有された。
3. 科研費中間評価報告書について

科研費の中間評価報告書を作成し提出したことが報告された。
4. 会費免除について

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による影響で修学の継続が困難になっている学生会員に対する2022年度の会費を免除することが報告された。

[審議事項]

- (1) 賛助会員の申請について
 - ・1件の賛助会員の申請について検討し、評議員会に諮ることが承認された。
- (2) Scopusの登録について
 - ・Scopusの登録申請に必要な条件が説明され、申請の手続きを進めることが承認された。
- (3) 言語学オリンピックについて
 - ・継続審議となっていた言語学オリンピックへの支援方法について議論され、後援をすることが承認された。また、外部団体の活動への協力に関する共催・協賛・後援の在り方に関する規定を今後定めることが検討された。
- (4) 未来の学術振興構想について
 - ・日本学術会議が公募している「未来の学術振興構想」の「学術の中長期研究戦略」提案への学会内公募に1件の応募があったことが報告され、それに基づき申請の手続きを進めることが承認された。

——評議員会——

2022年度第2回評議員会

日時：2022年11月11日（金）15:00～16:40

場所：オンライン

出席者：福井直樹（会長）、有田節子、石井 透、伊藤たかね、上田 功、上山あゆみ、梅谷博之、江口 正、江畑冬生、大沢ふよう、大津由紀雄、荻野綱男、奥 聡、尾谷昌則、越智正男、小野尚之、風間伸次郎、加藤重広、河内一博、岸本秀樹、桐生和幸、久保智之、窪菌晴夫、窪田悠介、呉人 恵、小泉政利、小林正人、酒井弘、佐々木冠、下地理則、杉崎鉦司、滝浦真人、田窪行則、千田俊太郎、塚本秀樹、中谷健太郎、長屋尚典、中山俊秀、西村義樹、野田尚史、長谷川信子、林範彦、早津恵美子、広瀬友紀、堀江 薫、松浦年男、松本 曜、宮本陽一、山越康裕、由本陽子、吉田和彦（以上、評議員 50名）

委任状：11名

オブザーバー：上野善道（顧問）、藤代 節、米田信子（以上、会計監査委員）、内藤真帆（広報委員長）、田中真一（夏期講座委員長）、上田由紀子（倫理委員長）、秋庭大悟、小林ゆきの（以上、事務局委員）

[報告事項]

- (1) 今期の組織・役員について
 - ・今期の組織・役員が資料によって確認された。
- (2) 今後の大会開催予定について
 - ・以下の予定が報告された。
 - 第166回大会（2023年度春季大会）：2023年6月17日～18日、専修大学（大会実行委員長：長谷川宏氏）
 - 第167回大会（2023年度秋季大会）：2023年11月11日～12日、同志社大学（大会実行委員長：星 英仁氏）
 - 第168回大会（2024年度春季大会）：

2024年6月15日～16日、国際基督教大学

第169回大会（2024年度秋季大会）：2024年11月9日～10日、北海道大学

- (3) 各種委員会からの報告
 - ・本彙報の各委員会の項目を参照。
 - 1. 若手研究者の意識調査の結果について
30代までの若手会員に向けて実施した意識調査の結果が報告され、今後の学会運営の参考とすることが説明された。
 - 2. Scopusの登録について
Scopusの登録申請に必要な条件が説明され、申請の手続きを進めることが報告された。
 - 3. 未来の学術振興構想について
日本学術会議が公募している「未来の学術振興構想」の「学術の中長期研究戦略」提案への学会内公募に1件の応募があったことが報告され、それに基づき申請の手続きを進めることが報告された。
 - 4. 科研費中間評価報告書について
科研費の中間評価報告書を作成し提出したことが報告された。
 - 5. 会費免除について
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による影響で修学の継続が困難になっている学生会員に対する2022年度の会費を免除することが報告された。

[審議事項]

- (1) 賛助会員の申請について
 - ・1件の賛助会員の申請について検討し、承認した。
- (2) 言語学オリンピックについて
 - ・継続審議となっていた言語学オリンピックへの支援方法について議論され、後援をすることが承認された。また、過去の申し合わせ事項を参考にしながら外部団体の活動への協力に関する共催・協賛・後援の在り方に関する規定を今後定めることが確認された。

——編集委員会——

- (1) 2022年4月1日から10月20日までの『言語研究』への投稿（初回・修正含む）ならびに審査状況は、下記の通りである。

	全体	一般論文	特集論文（見込み）	フォーラム	書評論文	書評・紹介
投稿数	24	11	10	2	0	1
審査終了数	7	5	2	0	0	0
採択数	3	1	2	0	0	0
採択率	12.5	9.0	20.0	0.0	0.0	0.0
不採択数	4	4	0	0	0	0
不採択率	16.7	36.3	0.0	0.0	0.0	0.0

* 全投稿の分野別内訳：文字と音韻7、理論言語学5、英語学3、第二言語習得3、日本語方言学2、記述言語学2、中国語2（採択の2本は記述言語学〔特集〕、1本は英語学〔一般〕）

- (2) 『言語研究』163号（2023年1月刊行）への掲載は、一般論文6本を予定している。
- (3) J-stageがプレプリント（サーバJxiv）の運用を2022年3月24日に開始した。日本言語学会の現行の投稿規程では、「投稿は未公開の完全原稿に限る」とされており、プレプリントの投稿が妨げられないことになっているため、編集委員会では対応を検討した。その結果、『言語研究』の査読は匿名性を前提としておこなわれていることから、プレプリントの投稿は現時点では受理できないという意見が大半を占めた。一方で、オープンサイエンスの時代的要請に応えることも必要との意見も出された。常任委員会ならびに評議委員会では今年度中に方針を固めるべく継続審議とすることとした。

——大会運営委員会——

2022年度第2回大会運営委員会

日時：2022年9月7日（水）10:00～12:00

場所：オンライン

出席者：江畑冬生（大会運営委員長）、大滝宏一、大島デイヴィッド義和、衣畑智秀、黒木邦彦、柴崎礼士郎、白井聡子、星英仁、松浦年男、米山聖子（大会運営委員）

[審議事項]

- (1) 第165回大会における研究発表の採否について審議した。応募要旨の審査結果に基づき、口頭発表43件（応募60件）、ワークショップ2件（応募2件）、ポスター発表5件（応募6件）を採択することとした。
- (2) 第165回大会のプログラム編成を行った。口頭発表は1日目に6会場の各7件ずつ（A会場のみ8件）とし、Zoomミーティングで開催することを決定した。さらに各発表をセッションに振り分け、司会者候補を決定した。
- (3) 1日目の口頭発表終了後にoViceを用いてポスター発表を行い、同じ会場で引き続き懇親会を開催することを決定した。
- (4) 2日目の午前中にワークショップを割り当て、午後に会長挨拶・授賞式及び公開シンポジウムを行うことを決定した。
- (5) 第165回大会での大会参加証の発行や運営委員内での役割分担に関して協議した。今大会の録画視聴のみ希望する人向けの参加登録システムについて協議し、第165回で導入することを決定した。

[前号記事訂正]

第162号の「彙報」報告に誤りがありました。次の3項目について以下のように訂正いたします。

- (1) 第164回大会における研究発表の採否について審議した。応募要旨の審査結果に基づき、口頭発表40件（応募55件）、ワークショップ3件（応募3件）、ポスター

発表5件（応募7件）を採択することとした。なお採否決定後に、口頭発表1件の発表辞退があった。

- (2) 第164回大会のプログラム編成を行った。口頭発表は1日目に6会場の各7件ずつとし、Zoomミーティングで開催することを決定した。さらに各発表をセッションに振り分け、司会者候補を決定した。
- (4) 2日目の午前中にワークショップを割り当て、午後には会長挨拶・授賞式及び特別公開シンポジウムを行うことを決定した。

——広報委員会——

- (1) 学会ウェブサイトの学会からのお知らせ（大会情報、夏期講座情報、学会プロジェクト、『言語研究』など）と学会関連情報（公募情報、研究会情報など）を随時更新した。
- (2) TwitterとFacebookで、学会からのお知らせを随時発信した。
- (3) YouTubeチャンネルで大会公開シンポジウムの動画を公開した。
- (4) 日本言語学会のウェブサイトリニューアルのためのWGが発足した。メンバーは松浦年男氏（WG長、北星学園大学）、松井理直氏（大阪保健医療大学）、安永大地氏（現広報委員、金沢大学）、中川奈津子氏（現広報委員、国立国語研究所）の4名。7月28日に、前広報委員長、現広報委員長、WGメンバーで話し合いを持ち、以後WGは適宜、広報委員長に報告ならびに学会事務局長に報告・提案・相談を行いながらリニューアルを進めてゆくことが確認された。

——学会賞選考委員会——

2022年度第1回学会賞選考委員会

日時：2022年9月27日～10月3日

開催方法：メール審議

[審議事項]

2022年度の論文賞及び第164回大会における大会発表賞の選考を行い、それぞれ1名の受賞を決定した。

——夏期講座委員会——

(1) 夏期講座2022終了報告

- ・夏期講座2022（8月30日～9月3日）が全面オンライン（ホスト校：東北大学）により開催され、5日間の日程を無事終了した。
- ・参加申込は229名を数えた。内訳は、一般会員91名、学生会員72名、一般非会員35名、学生非会員31名であった。
- ・終了後に受講者アンケートを行い、86名から無記名による回答を得た（年齢内訳：20代以下27名、30代18名、40代11名、50代17名、60代以上13名）。とくに満足度について、以下の通り、大半の受講者から「受講して良かった」との回答を得た。

大変良かった	52 (60.5%)
良かった	29 (33.7%)
普通	5 (5.8%)
あまり良くなかった	0 (0%)
良くなかった	0 (0%)

(2) その他

今後の予定として、(1) 夏期講座2026の開催校選定、(2) 委員の一部交代を進めることを確認した。

——倫理委員会——

(1) 令和4（2022）年度10月からの委員

委員長	上田由紀子	2022/04/01～2023/3/31
副委員長	江口 正*	2022/04/01～2023/3/31
委員	大崎紀子	2022/10/01～2023/9/30
委員	太田真理	2022/04/01～2023/3/31

委員	越智正男 ** 2022/10/01 ~ 2023/9/30
委員	折田奈甫 2022/10/01 ~ 2023/9/30
委員	小林正人 2022/10/01 ~ 2023/9/30
委員	塩原朝子 2022/04/01 ~ 2023/3/31

* 副委員長の江口正氏は次期留任し、2023/04/01 ~ 委員長。

** 越智正男氏は、宮本陽一氏（再任）の後任。

- (2) 委員の任期に合わせ、委員長・副委員長の任期の運用方針に関し10月より検討する。

——国際発信力強化小委員会——

- (1) 会長就任記念論文5本（福井直樹先生、井上和子先生、川本茂雄先生、西田龍雄先生、服部四郎先生）の英訳・校閲作業を進めている。2022年度末までに Gengo Kenkyu Anthology Vol. 3 として公開する予定である。
- (2) 2022年12月3日に開催予定の英文レビュー作成ワークショップの準備を進めている。

第 165 回大会

期日 2022 年 11 月 12 日 (土)・13 日 (日)

会場 オンライン (Zoom および oVice)

公開シンポジウム 11 月 13 日 (日) 13:20 ~ 16:20

「琉球における言語継承活動の現状と課題」

企画：西岡 敏

司会：下地賀代子

(S-1) 地域コミュニティと取り組む奄美大島方言のデータ収集・公開

重野 裕美

白田 理人

(S-2) 一調査者が言語の継承にどう関われるか? : 高校生との協働による宮古島諸方言記録活動の事例報告

林 由華

(S-3) 与那国島と沖永良部島の事例報告

山田 真寛

(S-4) 「しまくとぅば講師養成講座」と「しまくとぅば検定」

西岡 敏

口頭発表

—第 1 日 (11 月 12 日 (土)) 10:20 ~ 16:30—

◦ A 会場

(A-1) 10:20 ~ チュヴァシ語における否定小辞 an の移動

菱山 湧人

(A-2) 11:00 ~ キルギス語の数詞 *bir* 「1」の多機能性

アムラケワ・ジャシムク

(A-3) 11:40 ~ ウズベク語において推量を表す二つの分析的形式にはどのような差異があるか

日高 晋介

(A-4) 13:20 ~ Discourse Markers in Ukrainian—Contrastive analysis with Russian—

Anna KARBOVNYCHA

(A-5) 14:00 ~ ここじゃ雨なんか降らない—現代ロシア語の否定生格に見る視点と存在の認知的関係—

木下蒼一郎

(A-6) 14:40 ~ 身体部位詞を含む慣用句の意味拡張—意味拡張プロセスからの分析—

王 雪瑤

(A-7) 15:20 ~ 古典サンスクリット複合語の morphology/syntax の不整合

内ヶ崎 哲

(A-8) 16:00 ~ トルコ語の項体言化と文法関係

鈴木 唯

◦ B 会場

(B-1) 10:20 ~ PPI in Maasai

Sumiyo NISHIGUCHI

(B-2) 11:00 ~ アラビア語チュニス方言の否定と主題化

熊切 拓

(B-3) 11:40 ~ アカン語の na 焦点構文の韻律的特徴

古閑 恭子

(B-4) 13:20 ~ 現代中国語の“X 们”の意味と機能

島 健太

(B-5) 14:00 ~ パピアメント語における nan の場所標識機能について

アルミロン・ハトリオ・ハレラ

(B-6) 14:40 ~ ノス彝語の指示詞について

沈 宏

(B-7) 15:20 ~ 音韻学の方法の衝突：『文海』甲種本の反切と体裁に基づく西夏語の音節構造の再考

濱田 武志

◦ C 会場

(C-1) 10:20 ~ 虚辞 *it* と選択関係

森竹 希望

(C-2) 11:00 ~ 主語 *wob* 句の移動派生再考：主語・目的語の非対称性への拡張

末永 広大

(C-3) 11:40 ~ 英語の転換動詞・逆成動詞形成における統語環境の役割について

岡田 祐輝

(C-4) 13:20 ~ The Size of Clausal Complements of *-mitai* and *-yoo* in Japanese

Takayuki AKIMOTO

Yuta TATSUMI

- (C-5) 14:00 ~ Split Questions and Ellipsis in Japanese Keisuke YOSHIMOTO
 (C-6) 14:40 ~ 日本語と中国語における分配を示す表現の構造分析 張 瑩
 (C-7) 15:20 ~ A micro-parametric approach to the cross-linguistic variations in resultative constructions Linya Yi
- D 会場
- (D-1) 10:20 ~ 意味処理を反映する事象関連電位 N400 にマスク下プライミングが与える影響 中島 潤
太田 真理
 (D-2) 11:00 ~ 主語の役割はいつ決まるか—感覚交差語彙プライミングによる調査 磯野真之介
広瀬 友紀
 (D-3) 11:40 ~ The Role of Case-Marking Particles in Interpreting the Japanese Auxiliary Verb (*Ra*)*reru*: Evidence from Eye-Tracking Chika OKADA
Yusuke SUGAYA
 (D-4) 13:20 ~ The semantic meaning and function of the Chinese adverb 「就」 *jiu*—A research in disjunctive conjunction sentences— Yuchen ZHANG
 (D-5) 14:00 ~ 「V て V」文の非連言的分析 森 一
 (D-6) 14:40 ~ 深層学習モデルによる日本語動詞の双方向形態屈折の検証 深津 聡世
原田 宥都
関澤 瞭
田村 鴻希
大関 洋平
加藤 剛史
- (D-7) 15:20 ~ 用法基盤アプローチに基づく L2 英語発達指標の検討：日本語母語話者を対象に
- E 会場
- (E-1) 10:20 ~ 文脈下で提示された同音異アクセント語の認知 有賀 照道
 (E-2) 11:00 ~ 借用語における拗音化の定量的分析 田中 雄
土川 京子
松原 理佐
 (E-3) 11:40 ~ L2 英語の語処理における二重アクセスモデルとメンタルレキシコン内の音韻表示の非対称に関する検討
 (E-4) 13:20 ~ 様態動詞の経路句との共起制限と移動表現の類型論：ベンガル語の自立移動表現の考察から 江口 清子
石川さくら
 (E-5) 14:00 ~ 体言化理論における文法関係と概念表示：インド・アリア諸語の用言基盤体言化から 吉田 樹生
石川さくら
 (E-6) 14:40 ~ 沖縄語形容詞述語の形態論—そこに「ある」はあるのか？ 玉元 孝治
 (E-7) 15:20 ~ 北琉球奄美語と論島方言における対格標識と示差的目的語標示 宮川 創
- F 会場
- (F-1) 10:20 ~ 中国語武漢方言における 2 音節轻声語彙の音声的实现 周 端馳
 (F-2) 11:00 ~ 漢語河南省扶溝方言の二音節語における連続変調の実験音声学的分析 楊 裴斐
 (F-3) 11:40 ~ Acquisition of Standard Chinese Neutral Tone under Variation Theory: A comparison of Beijing Mandarin speakers and Cantonese speakers Xuanxin WU
Akitaka YAMADA
 (F-4) 13:20 ~ 日本語の左方転位構文の「形式」と「意味」再考 大江 元貴
居關友里子
鈴木 彩香
大神雄一郎
 (F-5) 14:00 ~ いわゆる「属性付与」の「ガスル」構文と「ラシテイル」構文の意味区分について
 (F-6) 14:40 ~ 戦後韓国語における新聞の外来語の量的推移—日本語の外来語の量的推移との比較— 黄 秀智
 (F-7) 15:20 ~ 日本語のラレル構文と中国語の“被”構文の対照言語学的研究—意味領域の共通性— 劉 嘉勇

ポスター発表

—第1日 (11月12日(土)) 16:00～17:00—

- | | | |
|-------|---|------------------------------------|
| (P-1) | 文処理における意味的、統語的促進性干渉—英語母語話者を対象にして— | 新井 大智
中野 陽子 |
| (P-2) | Ongoing change in noun elaboration via bound suffixes in written Japanese | Kevin HEFFERNAN
Yusuke IMANISHI |
| (P-3) | 日本語のガ・ノ交替における「ノ」の残留について | 田口 茂樹
黒田 悠華 |
| (P-4) | 標準日本語のアクセントの逸脱に対する違和感について—4モーラ語の名詞を対象として— | 韓 喜善
難波 康治
陳 曦 |
| (P-5) | 目的語—斜格—動詞の語順をとる言語 | 時崎 久夫
桑名 保智 |

ワークショップ

—第2日 (11月13日(日)) 10:00～12:00—

。ワークショップ1

- | | | |
|---------|--------------------------|---------------|
| (W-1) | レキシコンの輪郭：派生の領域とインターフェイス | 企画者・司会者：工藤 和也 |
| (W-1-1) | 意味合成の領域とレキシコンからシンタクスへの写像 | 工藤 和也 |
| (W-1-2) | 分散形態論と語彙的 V-V 複合語の意味構成 | 田中 秀治 |
| (W-1-3) | 語彙層を超えた異形態：日本語の数詞からの試案 | 依田 悠介 |

。ワークショップ2

- | | | |
|---------|--------------------------|---|
| (W-2) | グロス再考：実践が支える言語観，言語観が導く実践 | 企画者：松田 俊介
司会者：西村 義樹
コメンテーター：林 徹
古賀 裕章
西村 義樹 |
| (W-2-1) | グロス実践における問題点とその背景にある言語観 | 浅岡健志朗
石塚 政行
松田 俊介 |
| (W-2-2) | グロス実践における問題点の回避と素朴知識 | 石塚 政行
田中 太一 |
| (W-2-3) | 表示は何を表示するか：グロス・ラベル・図 | 松田 俊介
田中 太一 |
| (W-2-4) | ブロックの比喩の功罪と動的言語観 | 田中 太一
浅岡健志朗
石塚 政行
松田 俊介 |

◇退 会

国内通常会員： 1名
1名

◇入 会

国内通常会員：14名
在外通常会員：1名
国内学生会員：52名
67名



◇本学会評議員の吉田和彦氏が、2022年12月12日に日本学士院の新会員に選出されました。
本学会として心よりお祝い申し上げます。



◇本学会の評議員を務められた高見健一氏が、2022年4月1日に逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

2022 年度役員

【会長】

福井直樹

【顧問】

上野善道, 影山太郎, 梶茂樹, 国広哲弥, 窪蘭晴夫, 柴谷方良, 田窪行則, 早田輝洋, 松本克己

【常任委員】

有田節子, 上山あゆみ, 太田真理, 奥 聡, 北原久嗣, 北原真冬, 桐生和幸, 酒井弘, 菅原彩加, 成田広樹, 原田なをみ

【事務局】

石井透 (事務局長), 秋庭大悟, 小林ゆきの

【評議員 (70名)】

青木博史, 有田節子, 五十嵐陽介, 石井透, 伊藤たかね, 井上優, 上田功, 上山あゆみ, 内堀朝子, 梅谷博之, 江口正, 江畑冬生, 大沢ふよう, 大津由紀雄, 萩野綱男, 奥 聡, 尾谷昌則, 越智正男, 小野尚之, 小野創, 風間伸次郎, 加藤重広, 河内一博, 菊澤律子, 岸本秀樹, 北原久嗣, 木部暢子, Catt Adam, 桐生和幸, 金水敏, 久保智之, 窪蘭晴夫, 窪田悠介, 呉人恵, 小泉政利, 小林正人, 近藤泰弘, 斎藤衛, 酒井弘, 佐々木冠, 定延利之, 下地理則, 杉崎敏司, 滝浦真人, 田窪行則, 竹沢幸一, 千田俊太郎, 塚本秀樹, 中川裕, 中谷健太郎, 長屋尚典, 中山俊秀, 那須川訓也, 西村義樹, 新田哲夫, 野田尚史, 長谷川信子, 林 徹, 林範彦, 早津恵美子, 広瀬友紀, 堀江薫, 益岡隆志, 町田健, 松浦年男, 松本曜, 宮本陽一, 山越康裕, 由本陽子, 吉田和彦

【編集委員会】

呉人恵 (委員長), 青木博史, 安藤智子, 江畑冬生, 加藤重広, 小西いずみ, 小山哲春,

土橋善仁, 中川裕, 長屋尚典, 野村益寛, 広瀬友紀, 宮本陽一

【特別編集委員】

Lisa Cheng, Wesley Jacobsen, 金周源, Terje Lohndal, Andrej Malchukov, Armin Mester, 富岡諭

【大会運営委員会】

松浦年男 (委員長), 浅原正幸, 大滝宏一, 小野智香子, 甲斐ますみ, 衣畑智秀, 黒木邦彦, 小町将之, 白井聡子, 田川拓海, 矢野雅貴, 吉田健二, 米山聖子

【広報委員会】

内藤真帆 (委員長), 大関洋平, 児倉徳和 (英語ページ webmaster), 志波彩子, 杉崎敏司, 中川奈津子, 安永大地 (日本語ページ webmaster)

【夏期講座委員会】

田中真一 (委員長), 内堀朝子, 木山幸子, 古賀裕章, 千田俊太郎, 堀博文

【学会賞選考委員会】

酒井弘 (委員長), 五十嵐陽介, 北原真冬, 桐生和幸, 小林正人, 菅原彩加, 成田広樹

【倫理委員会】

上田由紀子 (委員長), 江口正 (副委員長), 大崎紀子, 太田真理, 越智正男, 折田奈甫, 小林正人, 塩原朝子

【国際発信力強化小委員会】

佐々木冠 (委員長), 阿部宏, 李勝勳, 大関洋平, 小野創, 澤田英夫, 原田なをみ, 平子達也, 山越康裕

【会計監査委員】

藤代節, 米田信子